

コール・ポーターと「キス・ミー、ケイト」

久 野 誠

Cole Porter and *Kiss Me, Kate*

Makoto HISANO

Abstract

Cole Porter was a great American composer and songwriter. At the same time, he was a millionaire, and a homosexual. He was noted for his sophisticated lyrics, clever rhymes, and complex forms. His work include “catalogue”, exotic and jewish songs. He experienced an equestrian accident in 1937 that left him in constant pain. Nevertheless, he continued to write songs and musicals. *Kiss Me, Kate* (1948) is a monumental musical comedy with music and lyrics by Porter. We’ll throw light on “sophistication” which roots in his lyrics by analyzing his musical numbers inserted into *Kiss Me, Kate*.

Key words

Ambivalence, Antithesis, Beguine, Contrast, Homosexuality, Humour, Irony, Jewish, Millionaire, Oxymoron, Sarcastic Praise, Survivor, Sophistication

はじめに

Cole Porter (1891-1964) はアメリカを代表するポピュラーソング・ライターである。彼は他に類を見ない洗練されたラブソングを1,000曲近く残した⁽¹⁾。本稿では、ミュージカル喜劇の最高傑作とされる *Kiss Me, Kate* (1948) に挿入されたポーターの歌曲の分析と伝記的事実の勘案を通じて、彼の作品に根づくソフィスティケーション [=主に美しい曲と屈折した詞のコントラストによって得られるように思われる都会的で洗練された調子] の解明に焦点があたる⁽²⁾。筆者は、コントラストの観点から、レトリックの精神をもつ諸作家の修辭的現実の究明に力を入れている⁽³⁾。フランスにブルーストがいて日本に漱石がいるように、英国にシェイクスピアがいてアメリカにコール・ポーターがいる。ポーターの歌曲を解く鍵は、同性愛、大富豪、ユダヤ性、ビギン、ほめ殺し、逆境、二極化、滑稽化、皮肉なユーモア、アンビバレンス、対照法、不對法、反語法、撞着語法である⁽⁴⁾。

アメリカの同性愛者達にとってポーターは誇りである。彼はエイズによる多臓器不全で亡くなり、死後 HIV 撲滅キャンペーン CD の広告塔にされた⁽⁵⁾。英国にはゲイの作家が多く、ワイルドやモームの名もすぐに浮かぶ。しかし、同性愛者の声を集めた全米同性愛協会編著で、ポーターの名はブルーストとミケランジェロの間に並ぶ⁽⁶⁾。ポーターは、同じように同性愛者で、同じように73歳で亡くなり、同じように都会的なセンスの持ち主である Noël Coward (1899-1973) と比較されることが多い⁽⁷⁾。J. Morella の *Genius and Lust* によれば、ノエルは「都会的な若者」が好みであっ

※ E-mail hisano@ha.shotoku.ac.jp

たのに対して、コールは「粗野な男娼」が好みであった⁽⁸⁾。小柄で華奢なポーターが、がさつな男性を好んだというから面白い。ポーターは、エール大学時代（1909-13）からすでに多くの曲と男をつくっていた。豊富な男性体験が彼のラブソングづくりの根底にあるのは確かである。

ポーターは、祖父が商売で成功して資産家の家庭に生まれ育った。彼はさらに金持ちの上流社交界の美人女性リンダと結婚した。自らも後年ヒット曲を量産して大金持ちになった。お金に不自由しなかったのも、ポーターはあちこち旅をした。ヨーロッパはもちろんのこと、1930年には極東を訪れ、1935年には豪華客船で世界を一周したり、1940年にはキューバやメキシコを船で訪問した。ジャズ愛好家のバイブル、C. Tomkins の *Living Well Is the Best Revenge* に描かれているような1920から30年代の大富豪の生活があった⁽⁹⁾。彼は曲想を得るのに恵まれた環境にあった。ポーターは、*Night And Day* (*Gay Divorce*, 1932) や *Begin The Beguine* (*Jubilee*, 1935) で有名だが、ビギンだけでなく、世界中の民俗音楽で気に入ったものがあれば自作に取り入れることのできる位置にいた。

ポピュラーソング・ライターはアカデミックな音楽教育を受けていないことが多い。しかし、ポーターは、エール大学を首席で卒業後、ハーバード大学の法科から音楽科に転科し、ニューヨークで音楽の勉強をしたあと、パリの音楽学校でも対位法や和声法や管弦楽法を学んだ。「貧しいユダヤ系移民出身の多いアメリカン・ミュージカル作曲家のなかで、めずらしく彼はアングロ・サクソン系の富裕階級の出身で正統な音楽教育を受けた」⁽¹⁰⁾。彼は創作の秘訣をユダヤ音楽に求めた。それは短調をうまく取り込んで深みを捻出するものだった。ロジャースが1926年にポーターと会ったとき、ポーターは、「ようやくヒット曲を書く秘密を見つけたという告白もしている。『ユダヤ的なメロディを書くんだ』と彼は言った。その口調は真面目そのものだった」⁽¹¹⁾。*I Love Paris* (*Can-Can*, 1953) では、「巴里が好き」という曲名からして明るい曲のはずが、いきなり短調で始まり、人の意表を突く。その後、長調に移る。この転調がユダヤ音楽の特徴のひとつであった。マリリン・モンローが「恋をしましょう」(1960) で歌った *My Heart Belongs to Daddy* (*Leave It To Me*, 1938) にも、ヘレン・メルルで有名なジャズのスタンダード・ナンバー *You'd Be So Nice To Come Home To* (*Something To Shout About*, 1942) にも、ユダヤ音楽の影響がみられるとされる。

ポーターというと、ビギンである。ビギンは「ユダヤ音楽と同じ短調系で半音階の連続した上昇や下降がくり返される旋律で、マストによれば、『トムトム太鼓の音に移したりリズムが特徴的である。』また、カリブ海の土着の民俗音楽なのでラテン・アメリカらしいエロティシズムが特徴である。『ビギンの曲がはじまる』や『夜も昼も』がとくに名高いが、ポーターのロマンチックな歌はほとんどビギンと考えて間違いはない」⁽¹²⁾。ポーターの伝記ミュージカル映画「五線譜のラブライター」*De-Lovely* (2004) のなかで、Sheryl Crow が、コールの妻リンダの流産の苦悩を表現するために、哀歌調に編曲された *Begin The Beguine* を雰囲気たっぷりに歌いあげていたのをわれわれは覚えている⁽¹³⁾。そこでは本来のエキゾチックな特性が消え、すっかり都会的なエレジーが顔を出していた。ビギンが短調系の音楽であることを思い知らされた。*Night And Day* も、「トムトムのビートのように | 日の落ちたジャングルに響く」という出だしからも喚起されるように、*Begin The Beguine* におとらず、異国情緒をもった作品である。

ポーターには、*You're The Top* (*Anything Goes*, 1934) というカタログソングがある⁽¹⁴⁾。「僕は最低」*I'm the bottom*. だが「君は最高」*You're the top*. と、自己を卑下して相手を称える二極的な表現が並ぶ。ローマのコロセウム、ルーブル美術館、ピサの斜塔、シェイクスピアのソネット、ホイットマンの「母の肖像画」、ダンテの「神曲」のように偉大なものが並ぶこともあれば、ナポレ

オンブレンダー、カマンベールチーズ、ウォルドルフサラダ⁽¹⁵⁾のように卑近なものが並ぶこともある。ほめ殺しに近い。「ジミー・デュランテの大きな鼻」⁽¹⁶⁾や「ペプソデントの歯磨き」⁽¹⁷⁾や「ロキシーの案内係のズボン」⁽¹⁸⁾のように、人をくったほめ言葉もある。ポーターは実生活でも人をほめるのが好きで、人からほめられることも好んだ。「金持ち喧嘩せず」の諺にもあるとおり、王侯貴族や上流階級の人達は、本心を偽ってでも相手をほめると言われる。富裕層で上流社会にいたポーターは、ほめ殺しの人となる条件を二重にクリアしていた。社交界では、無作法な人物でも面と向かって非難するのは大人気ないので、くさす代わりにほめることが多い。場合によっては慇懃無礼にもみえる。ほめ殺しも慇懃無礼も撞着語法的語形成である。

ポーターは、1937年10月に落馬事故で両足の骨がくだけの重傷を負い、実に20年間に35回の外科手術を受けた。足踏みピアノが作曲に不可欠と考えた母親と妻が足の切断を認めなかったからであった。しかし、彼は逆境に耐えた。ドキュメント映画『コール・ポーター物語』によれば、「彼の口から愚痴や同情を求める言葉がでることはなかった。部屋には文字が刺繍されたクッションがあって、『いいわけするな、不平をいうな』と書かれてあった」⁽¹⁹⁾。A. Wilder は書いている。「ポーターは、長年、落馬事故でくだけた脚の激しい痛みに苦しめられた。ポーターの苦痛は何年も実際の不眠をひきおこすほどひどかったはずだと、担当の外科医が私に話したことがある。それでもこの苦痛にあえぐ男は、すぐれた曲と機知にとんだ歌詞を書いたばかりか、1948年には、たぶん、彼のもっとも成功したミュージカル *Kiss Me, Kate* をつくった」⁽²⁰⁾。

Kiss Me, Kate は、1948年12月2日に、フィラデルフィアで先行上演された。「観客の反応があまりにも熱狂的なものであったため、ヒット作がくるという噂が24時間たらずしてニューヨーク中に広まった」⁽²¹⁾。12月30日に、本作は、鳴りもの入りのブロードウェイ・デビューを果たした。1951年7月28日の閉演までの間に、1077回のロングランを達成した。ポーターのミュージカルでは最長である。初演は S. Subber と L. Ayers の共同製作⁽²²⁾。脚本は Spewack 夫妻⁽²³⁾。「ミュージカル演劇の最高傑作」⁽²⁴⁾。この作品が「これまで見たミュージカルのなかでベストではないとするなら、何が最高のミュージカルなのかわからない」⁽²⁵⁾。「『じゃじゃ馬ならし』よりも偉大な作品」⁽²⁶⁾。*Kiss Me, Kate* は劇中劇として *Taming Of The Shrew* (1593-94) を含む⁽²⁷⁾。*Kiss Me, Kate* は、トニー賞を初演時と再演時に2度受賞した⁽²⁸⁾。日本でも2002年に東宝創立70周年記念公演として、なかにし礼の訳詞で和製ミュージカル化され、帝国劇場を皮切りとして各地で上演された⁽²⁹⁾。1953年には映画化され、2003年にイギリスの PBS テレビで放送され好評を博した⁽³⁰⁾。映画版 DVD はワーナーから、テレビ版 DVD は TDK コアから発売された⁽³¹⁾。

Kiss Me, Kate の粗筋。「じゃじゃ馬馴らし」の開演直前。座長フレッドと看板女優リリは元夫婦。互いに未練はあるが、リリはハリソンとの結婚を控え、フレッドは新人女優ロイスに下心を抱く。ロイスに贈った花束が誤ってリリの元に届く。昔と同じブーケを見てリリは再び恋心を燃やす。メッセージを確認せずに懐に入れ、気をよくして舞台に上がる。上演中に花束がロイスに贈られたことを知り激怒する。舞台を降りると言い出す。折から若手男優のビルが博打で大金をすり、ギャングが取立てにくる。ビルが座長名で借用書にサインしたために、フレッドが借金を負う。フレッドは公演を成功させて借金を返す約束をする。リリが舞台を降りれば借金は返せない。彼らにリリを銃で脅してもらふ。リリは恐怖を感じハリソンを呼ぶ。フレッドはリリに行かないように頼む。リリはハリソンと劇場を去る。ギャング達も、ボスが死んで借金を取り立てる必要がなくなり、去る。フィナーレ。フレッドはリリの代役を頼む。リリが戻り、舞台で妻の心得を説

く。二人は愛を誓う。舞台も舞台裏もハッピーエンド⁽³²⁾。

挿入曲の構成⁽³³⁾。第1幕：Another Op'nin', Another Show「幕があいたら別なショー」| Why Can't You Behave? 「いい子にして」| Wunderbar 「すてき」| So In Love 「こんなに好き」| We Open In Venice 「ヴェニスで幕があく」| Tom, Dick Or Harry 「結婚相手は誰でもいい」| I've Come To Wive It Wealthily In Padua 「金持ちの妻をめとりにパドヴァに」| I Hate Men 「男なんか大嫌い」| Were Thine That Special Face 「あなたの特別な美貌」| We Sing Of Love 「愛を歌おう」| Kiss Me, Kate 「キスして、ケイト」。第2幕：Too Darn Hot 「暑すぎ」| Where Is The Life That Late I Led? 「これまでの人生はどこに」| Always True To You In My Fashion 「私なりにいつも誠実」| *From This Moment On 「この瞬間から」| Bianca 「ビアンカ」| So In Love 「こんなに好き」| Brush Up Your Shakespeare 「シェイクスピアを引用しよう」| I Am Ashamed That Women Are So Simple 「女の愚かさを恥じる」| Finale, Act II 「フィナーレ」。星印は初演版にない⁽³⁴⁾。

1948年9月以前のある時点では、挿入曲の構想は次のようになっていた⁽³⁵⁾。第1幕：Wunderbar | *It Was Great Fun The First Time 「はじめは大喜び」| Why Can't You Behave? | Another Op'nin', Another Show | *We Shall Never Be Younger 「あの頃に戻りたい」| We Open In Venice | *If Ever Married I'm 「いつか結婚したら」| We Sing Of Love | I've Come To Wive It Wealthily In Padua | Were Thine That Special Face | Tom, Dick Or Harry | Kiss Me, Kate 第2幕：Too Darn Hot | *What Does Your Servant Dream About? 「従者は何の夢を見る」| Always True To You In My Fashion | Where Is The Life That Late I Led? | *A Woman's Career 「女の仕事」| Brush Up Your Shakespeare | I Am Ashamed That Women Are So Simple | Finale, Act II. 星印の5曲は未使用。So In Love と I Hate Men と Bianca は、この時点ではまだミュージカル曲に入らない。I'm Afraid, Sweetheart, I Love You 「もしかして恋」というビアンカ向けの未使用曲もあった⁽³⁶⁾。

Another Op'nin', Another Show 「幕があいたら別なショー show | フィラデルフィア、ボストン、ボルティモア Baltimo' | 舞台役者のチャンス hello | 幕があいたら別なショー show || 待ちに待った仕事 that at last | 未来をつくり、過去を忘れさせる past | ストレスで潰瘍も悪化 grow | 幕があいたら別なショー show || なんと稽古しても rehearse | 準備はまだまだ worse | だいじょうぶ? right | 衣裳もめちゃくちゃ night || 序曲のはじまり start | あとは祈るだけ heart | 幕があき、さあ出番だ」。押韻部のみ原語を示した。残りの曲の歌詞についても、同様。歌詞に大きな特徴はないが、A. Wilder によれば、拍子の落とし方に特色がある。「第1節の終わりの部分で見事な工夫をする。どこに拍子が落ちるかに注目されたい。連続する小節で、4度音、3度音、2度音の上に拍子が落ちていく。この効果には目をみはるものがある」⁽³⁷⁾。オープニング・ナンバーの静かな始まりは、途中での高まりと対照的になっていて、曲のテンポに大きな変化が認められる。それはまだ暗くて灯りの灯るなかでの早朝の静かな掃除風景から始まる。そして少しずつ役者達が登場し、だんだん活気づく。こうして本曲は漸層法的に開幕の熱気を表現する。

Why Can't You Behave? 「いい子にして | あんなに固い | 口約束をしたのに gave | いい子にして behave | どうしてまじめになれないの? good | やるべきことをやって should | 心を入れ替えたら | あなたのベイビーはあなたの虜 slave | いい子にして behave | 故郷に近い農場で town | 仲よく暮らそう down | いつまでも愛しているわ | 死ぬまでは grave | いい子にして behave」。ロイスが、ギャングブルをやめないやくざな恋人のビルに哀願する感傷的な歌である。ロイスも人のことはいえな

いナイトクラブあがりの浮気女である。リリとフレッドの上流志向のカップルとは対照的に、ロイスとビルは割れ鍋に欠じ蓋の関係にある。『『いい子にして』は、ほとんど『一筋縄ではいかない』曲で、たいていのシンガーには難しすぎて、ポップ・ヒットにならないからである。ところが、この曲は、意外にポーターのお気に入りなのだ。2番目の音符が7度音のメジャー和音として、キーのそとにおき、見つかりにくくしている。通常のポーターの曲とは違った側面をもっており、少々メロドラマのように見受けられる。『こんなに好き』が歌われないときは、この曲がよく演奏されたことが、ここで思い出される」⁽³⁸⁾。

Wunderbar「ヴァース：下界を見おろすユングフラウ | 二人だけの山小屋 two | さあ飲みかわそう mein | 美しい月夜に benign | 夢がかなった喜びを祝って true リフレイン：すてき | 恋人達の夜 | あなたと私だけ | 本当にすてき || すてき | ここに二人きり | 雲ひとつない空 far | すてきな人生！ wunderbar || 彼女：愛おしい？ | 彼：狂おしいほどに madly | 彼女：待ちわびる？ | 彼：君のキスを | 彼女：心から誓う？ | 彼：喜んで gladly | 彼女：神聖なる人生 | 彼：君は僕のもの | 両者：すてき | 二人の星が | 空にきらめく star | 二人の愛のようなすてきな輝き wunderbar」。

ドイツ語の Wunderbar は Wonderful である。一時期にはミュージカルのオープニング曲に考えられたこともある。いつも口げんかばかりする元夫婦のリリとフレッドだが、ふとしたきっかけで、新婚時代の貧しくも楽しかった日々を思い出し、当時の二人に戻ってこのワルツ曲を歌い踊る。性的暗示のないロマンティックな曲である。アメリカのポピュラー音楽は次のパートから成る。ヴァース、ブリッジ、リフレイン。ヴァースは前語りのようなパートで、ポーターはそれをうまく使う。『『すてき』は、もともと、Anything Goes のために書かれた『ウェディング・ワルツ』であった。しかし Anything Goes にも Jubilee にも使われなかった。それはシュトラウスの楽句のヴァースを使ったワルツ曲『古きウィーン』のパロディである。それでも、この曲は魅力的で、真中の節での G マイナーの主旋律から E フラットのキーへの音シフトも当意即妙に行われている」⁽³⁹⁾。

So In Love「不思議だけど Strange, dear | 本当 but true, dear | あなたのそばにいと dear | 満天の星 The stars fill the sky | こんなに好き am I || あなたがいなくても you | 私の腕はあなたにかかる you | わかるでしょう darling, why | こんなに好き am I || あなたを好きになったあの神秘的な夜 In love with the night mysterious | はじめて会ったあの夜を there | あの狂おしい喜びを In love with my joy delirious | あなたも好きと知った care || だから、ののしられ、傷つけられ So taunt me, and hurt me, | だまされ、捨てられても deceive me, desert me | 死ぬまで私はあなたのもの till I die | こんなに好き am I」⁽⁴⁰⁾。押韻部に加えて、後の解説に必要な原文については示した。

「ののしられ、傷つけられ、だまされ、捨てられても」の歌詞が、*Taming Of The Shrew* の内容にぴったり合っている。お転婆ぶりを発揮するまえのじゃじゃ馬娘が、第2幕のフィナーレではなく第1幕の最初のほうで、愛のためにひたすら耐えることを歌った曲を口にするわけだから、リリの性格演出上重要だし、場面展開上も大きな対比効果を生む。*Kiss Me, Kate* のなかで、リリとフレッドがそれぞれ別な場面で歌うふたつの「こんなに好き」は呼応する。リリが別れた夫のフレッドから昔もらったのと同じ花を贈られてやけぼくに火がつく場面と、リリが役を途中で降りてフレッドのもとを去っていく場面である。この曲は、時期的にも *Kiss Me, Kate* のミュージカル・ナンバーのなかで最後に作られた⁽⁴¹⁾。「この性的暗示のない真面目な歌はフレッドとリリが登場人物中、唯一のロマンチックでシリアスな人物だと知らせる」⁽⁴²⁾。すれた歌詞が多いなかでは、

純粹な恋の歌はかえって目立つ。これもコントラストの原則である。反面、本曲は、大げさな恋の歌で、いたずらに感傷的で、歌詞も単純なため、玄人受けしない。

「『こんなに好き』は、*Kiss Me, Kate* のなかで存在感をアピールしているバラードだ。しかし、私のいちばん好きな曲というわけではない。この曲は芸術作品としてはボーダーライン上にある。尊大さや仰々しさがある。それでも、この曲は完璧に書かれた劇的なバラードで、どんな歌手にとってもひとつの宝である。それは、演劇の大役について、アクター・ブルーフと言われるように、シンガー・ブルーフである。この曲は綿密に巧妙に上品に表現されている。決して強度を失うことなくつくられており、実際、驚嘆すべき職人芸である。たとえば、第10小節では、曲はDフラットまであがっている。同じ内容の第26小節では、Eフラットまであがる。なお同じ内容の第58小節でも、調子はFまで高まる。これはすぐれた手法である。また、ふたつの長い楽句に分かれる第3節では、最初の楽句はEフラットまであがっているが、次の楽句は半音高いFフラットまであがっている」⁽⁴³⁾。

「『こんなに好き』はビギン調の曲である⁽⁴⁴⁾。「リリは花束に心が動いてビギンの恋の歌『こんなに好き』[変イ長調、2／2拍子]をうたう。ビギンはカリブ海のボレロ調の民俗音楽で、ポーターがそのリズムと旋律を恋の歌として多用する。『こんなに好き』の歌詞は純粹な恋の気分を歌うだけのものだが、詩としてきわめて凝った脚韻をもっていて、旋律も洗練された音楽的技巧を見せている」⁽⁴⁵⁾。J. P. Swain による本曲の旋律解説の要旨が、『欧米演劇を探る』のなかで翻訳紹介されている。「曲の初めに歌われる2つの句は2つの特徴的な旋律を示す。すなわち半音階の動きと、そこから完全5度高い音への移動である。リリの歌う『不思議だけど』(strange, dear) と『本当』(true, dear) の半音の上昇する動きはビギンに特徴的である。次に5度の上昇は基準の曲から嬰イ短調、変イ長調への転調の繰り返しにより、繰り返しの度に5度に半音高いか、または半音低い上昇と変化し、最初のビギンの特徴的半音上昇メロディを再現する。最後の小節ではカデンツァを遅らそうとするロマン派に典型的な技法を用い、すべての黒鍵半音を加え、本来の旋律を表情豊かに変えている」⁽⁴⁶⁾。

本曲には、S. Citron による詳細な譜面分析がある。要約しよう。「フォーム：ヴァースなし。形式はシンプルで、A1、A2、ブリッジ、A3。2／2拍子。メロディ：入り組んでいてベストの1曲。音域は1オクターブと4度音程。歌い出しは短調。前打音までの5度音程のスキップは効果的。歌い終わりは長調。クライマックス部は高く力強さを与える。A1はDフラットの fill、A2はEフラットの dar-、ブリッジはFフラットの joy、A3はFナチュラルの till で頂点に達する。リリック：歌詞は平凡だが、ロマンチックで曲調とマッチ。倒置 (the night mysterious と my joy delirious) はすっきりしない。A3の歌詞は役にはまる。フレッドはリリーを欺き一時的に見捨てるから。トーチ・ソング。ハーモニー：ポーターのハーモニー感覚は、適正な語の配置と相俟って作用。最初の半音離れたCとDフラットは、入り組んだFマイナー (Strange, dear) と調和。切迫したC7 (but true, dear) と調和。語の配置は完璧。第5バーと7バーの前打音によって生み出される9度音程は、情動性の強さに調和をもたらす。クライマックスでは、Fフラットがロマンチックなフラット第9コードをつくる。2小節のブレイクのあと、マゾヒスチックな歌詞 So taunt me, and hurt me, deceive me, desert me (ボレロのテンポ) で短調になりコーダに達する。終結部の美しいハーモニーに、第61小節からアルトラインが入り、FからFフラット、Eフラット、Dナチュラルを経て、降りていく」。リズム：2小節の楽句に調和のリズムが作用。上拍 (In love, the night) 導入でブリッジ部に変化。下拍 taunt や hurt が対比をなす」⁽⁴⁷⁾。

We Open In Venice「私達は旅役者の一座 players are we | MGM 映画スターほど有名じゃないが Mayer's are we | みんなで全国を旅回り | 気ままな旅暮らし frivolitee | 私達のは大衆芝居 distraction are we | 名門劇場の芝居とは大違い attraction are we | でも気違い集団のように一度も休むことなく | イタリアをひと回り little Italee | ヴェネチア、ヴェローナ、クレモナ Cremona | クレモナは大受け Lots a laughs in Cremona. | クレモナは大儲け Lots a dough in Cremona. | クレモナは酒浸り Lots a bars in Cremona. | パルマでは Parma | 危機一髪 That dopey, mopey, menace. | 危機一髪 That stingy, dingy, menace. | 危機一髪 That beerless, cheerless, menace. | マントヴァにパドヴァ Padua | お次は? | どこ?」。本曲は早口口上からなる賑やかな歌で、「歌詞を当てこんだようにみえるが、曲も魅力的」⁽⁴⁸⁾である。ミュージカルでは、クレモナとパルマのくだりで3人が別々の歌詞を同時に歌う重唱形式になっている。Lots a laughs in Cremona.; Lots a dough in Cremona. ; Lots a bars in Cremona. That dopey, mopey, menace. ; That stingy, dingy, menace.; That beerless, cheerless, menace. これらは不協和音の集まりをうまく協和音に変えたような耳に快い響きをもたらす。laugh と dough や dopey, mopey と stingy, dingy との照応にも注意されたい。曲のテンポにも変化をもたせてある。

Tom, Dick Or Harry「僕は密輸で大儲け rackets | 今では大金持ち be | 上の暮らしがしたいなら brackets | 僕と結婚しておくれ me || 財布は銀の裏打ち付き lining | けどまだ独り身さ tree | 永遠の愛が欲しいなら pining | 僕と結婚しておくれ me || 僕は貴族の血筋[原文末は patrician | うち是由緒正しい名家 tree | ステイタスがほしいなら position | 僕と結婚しておくれ me || 結婚が私の願い qualm | 相手は誰でもいい Tom | 早く結婚したい quick | 相手は誰でもいい Dick]。「トムでもディックでもハリーでも」は「誰でもいいから [早く結婚したい]」の意味である。単純な交叉韻が踏まれている。ダンスが中心の「世俗的なうた」⁽⁴⁹⁾だが、本曲にはハーモニーのよさが感じられる。『じゃじゃ馬ならし』では、ビアンカに求婚する3人（ルーセンシオ、ホルテンシオ、グレミオ）のうち、グレミオだけは資産家だが年寄りで、他の二人とのあいだに対比があった。それはビアンカとの不釣り合いを強調した配役であった。しかし *Kiss Me, Kate* では、みな若者の設定になっている。第1の求婚者グレミオはお金の、第2の求婚者ホルテンシオは家柄の、第3の求婚者ルーセンシオは愛の象徴である。最後には愛をとるという設定である。実際、歌の最後のほうでは、ルーセンシオを示すディックの存在が強調される。Dick, Dick, Dick, Dick, Adickadick, Adickadick, Adickadick, Adickadick, Adickadick, Adickadick! ルーセンシオはビルの役どころになっていて、ビアンカ役のロイスとカップルをなす。

I've Come To Wive It Wealthily In Padua「金持ちの妻をめとりにパドヴァに wealthily in Padua | 金持ちの娘なら文句なし happily in Padua | 金さえもっていれば has a bag of gold | 袋が古くてもいい the bag be old | 金持ちの妻をめとりにパドヴァに || 俺は憎らしいほど豪気な男 lad you are | 少しも構わない bit | 頭が悪くても a quarter-wit, | 服のことしか話さなくても clo'es | 呪われた鼻におしろいを塗ってる間にね nose | 金持ちの妻をめとりにパドヴァに || 俺はすっかり頭のおかしい男 mad you are | 少しも動じない shock | 行儀が悪くても knock | やぶにらみでも bit crossed | はげでも she'd lost | 淑女にしてみせる dame | 暗がりではみな同じ same | 金持ちの妻をめとりにパドヴァに || 俺は体のいいごろつき cad you are | 気分屋でも fuss | ヴェスヴィオ火山の噴火のように煙草を吸っても Vesuvius | 冬の嵐のように轟いても a winter breeze | アドリア海に吹き荒れる嵐のようにね Adriatic seas | がきのようにわめいても a teething brat | 猫のように引っかいても a tiger cat | 猪のように突っ

かかってきて a raging boar | 以前はよく豚を刺し殺した a pig before | 金持ちの妻をめとりにパドヴァに | ハニ、ナニ、ナニありゃ With a hunny, nunny, nunny, | ヘイ、ヘイ、ヘイ And a hey, hey, hey, | マニ [金]、マニ [金] もっとありゃ Not to mention money, money | 雨日なし For a rainy day | 金持ちの妻をめとりにパドヴァに」。

ミュージカル劇では、最初の行以外は3人称単数で歌われた。He's come to wive it wealthily in Padua. 金さえあれば、金を入れる「袋が古くてもいい」は、「年増おんなでもいい」の意味にもとれる。「のろわれた鼻」は不細工な鼻を意味する。「暗がりではみな同じ」という箇所、皮肉な調子が一気に高まる。「ヴェスヴィオ火山の噴火」と「アドリア海の冬の嵐」の比喩は誇張法による。brat「がき」、cat「猫」、boar「猪」、pig「豚」の比喩のくぐりでは、最初の3要素と最後の要素とのあいだに対比がある。最後の箇所は戯訳だが、実際、印象に残るリズムと歌詞である。hunny, nunny, nunny と mention money, money との音韻対応は、世の中、金、金といっているようで、滑稽の極みである。hunny は honey の言い換えで、nunny bag はオットセイの毛皮でつくった雑囊の意味をもつ。ここでは、それらの類音語を無意味に使ったものである。

I Hate Men「リフレイン1：男なんか大嫌い men | 我慢できない then | 男と結婚するくらいなら処女がまし rather | 夫族は退屈で、あなたを困らせるだけ bother | ママがパパと結婚したのは嬉しいけど Father | 男なんか大嫌い || リフレイン2：いろんな男を見たけど democracy | 無神経で厚かましい荒くれが一番嫌い brassy | 胸毛が自慢のようだけど、ラッシーにも毛はある Lassie | 男なんか大嫌い || リフレイン3：男なんか大嫌い men | ただの役立たず ken | どんなに魅力的でも、旅商人と結婚しちゃだめ may be | 中国の翡翠やアラビアの香水をもらえても Araby | 彼が旅を楽しんでいる間、あなたは子守り baby | 男なんか大嫌い || ビジネスマンの夫にも用心 be wary | 仕事で帰れないと言うときは necessary | きまって美人秘書とお楽しみ secretary | 男なんか大嫌い || リフレイン4：男なんか大嫌い men | 雄鶏相手に雌鳥になるのはごめん hen | 若気のいたりで年寄りと結婚したら optimism | 夜はいつも家にいて、物分りはいい criticism | でもそれは愛じゃなくて、リューマチのせい rheumatism | 男なんか大嫌い！」⁽⁵⁰⁾。

本曲はケイトのじゃじゃ馬ぶりを象徴する歌で、第2幕フィナーレの「女達の愚かさを恥じる」におけるキャサリンの貞淑な言動を引き立たせるためのナンバーである。ミュージカルでも映画でも、キャサリンが歌いながら、金属の食器をひっくり返したり、食卓のうえで何度もパンパンぶつけたりと、やかましい印象をもつ曲である。彼女は、2、3行ずつの脚韻に乗せて、「荒くれ」と「ラッシー」、「旅」と「子守り」、「仕事」と「美人秘書とお楽しみ」、「老人の物分りのよさ」と「リューマチ」を突合せながら、男嫌いを豪快に歌う。ミュージカルでは特に「ラッシー」といった直後に爆笑がおこる。「名犬ラッシー」を観た世代が即座に反応したためである。

Were Thine That Special Face「あなたの特別な美貌 face | 私の夢 | 気品あふれる躍動感 grace | ほっそりとしなやかな姿 slender | 細腕は優しく温かい tender | 清らかなキス || 最愛の人 | 私の夢 | 魅力あふれる乙女 thine | 私のもの mine || 昔風に詩を書いた style | 二枚舌で書いた | 笑みをうかべながら smile | だがその詩が新しい意味をもちだした | 驚いたことに、現実となって目の前に現れたのだ | その理想こそあなた to my darling, to you」。1999年の再演版では、フレッド役の B. S. Michel が歌う最後の to you の声量豊かな引き伸ばしは圧巻である。さて、劇中劇で、パプティスタの屋敷の2階の窓から顔を出した長女キャサリンの気を引くために、ペトルーキオは、階下からほめ

殺しの歌を彼女に投げかける。キャサリンはじゃじゃ馬だから、ペトルーキオが口にする賛辞は反語に近い。ペトルーキオは、キャサリンが手のつけられないお転婆であるにもかかわらず、父親のバプティスタにも、初対面の際に正反対の形容をしている。以下に *Kiss Me, Kate* の台本 (Samuel & Bella Spewack, *Kiss Me, Kate*, Reclam, 2001, p. 63) から第1幕・第5場のくだりを引用しよう。

PETRUCHIO. Greetings, good sir. I hear, sir, you have a daughter call'd Katharine, fair and virtuous.

BAPTISTA. I have a daughter, sir, called Katharine.

PETRUCHIO. I am a gentleman from Verona, sir, that hearing of her beauty and her wit, her affability and bashful modesty; her wondrous qualities and mild behavior- (*Shriek is heard offstage. Petruchio pauses for a second with a glance toward balcony, but plows on.*) uh - mild behavior, am bold to make myself a forward guest within your house to make mine eye the witness of that report. Signor Baptista, my business asketh haste, and every day, I cannot come to woo.

ペトルーキオ：はじめまして、キャサリンという美しく貞淑なお嬢さんがおられるとか

バプティスタ：キャサリンという娘はいるが

ペトルーキオ：私はヴェローナの者ですが、当地でもその美貌と機知は有名で、淑やかで控えめ、才能豊かで物静か（女の金切り声が舞台の外から聞こえる。ペトルーキオは話を中断してバルコニーのほうをちらっと見るが、何とか話を続ける）物静かな方だとか、ぜひこの目で見たいと、参上した次第です。バプティスタさん、私は仕事が忙しく、毎日、口説きにくるわけには参りません。

ペトルーキオは、このときすでに、町の評判を聞いて、キャサリンが、美人ではあるが、手のつけられないじゃじゃ馬で、気のきつい男まさりの女であることを知っていた。しかも、自分の話は、キャサリンのわめき声によって掻き消されるのである。この反語的賛辞はシェイクスピアのものであるとともにポーターのものでもある。「二枚舌で書いた」とまで口に出して言っているのは、皮肉を通り越して滑稽でさえある。原文は *I wrote it with my tongue in my cheek* である。*speaking with one's tongue in one's cheek* は、直訳すれば「舌を頬の内側に置いて話す」で、「本心とは違うことを言う」の意味である。*OED* によれば、この熟語は890年頃から文献に現れるので、この意味で使われていることは確かである。

I Sing Of Love「愛を歌おう love | ただ愛を歌おう love | 天にまします神よ above | 愛を歌わせて love | 愛こそ喜び joy | 女も男も boy | 愛の営みは later on | 死ぬまで続く they're gone | 愛は theme | 万人の夢 dream | 愛は confess | 万人の仕事 business | 天にまします神よ above | 愛を歌わせて love | 甘い愛の歌を love」。輪唱で始まるカンツォーネ風の明るく勇壮な愛の讃歌で、ミュージカルでは主語が1人称複数に変わった。本曲は、愛の拒絶に終わる第1幕フィナーレと対比をなす。押韻は徹底しているが、地味な挿入曲である。

Kiss Me, Kate「ペトルーキオほか：キスして | ケイト：いや！ No! | ペほか：愛しい君 lovely loon | ケ：行って！ Go! | ペほか：行こう | ハネムーンに honeymoon | ケ：いやよ！ Nay! | かつてに 行って！ Away | ペほか：キスして | ケ：フレッド！ | ペほか：神の小悪魔 devil divine | ケ：消え

て！Kindly drop dead！ | ペ：君は永遠に [中略] ペ：そう、俺のもの Yes, mine. | ケ：いえ違うわ
thine. | ペ：そう、俺のもの mine | ケ：恥しらず You swine. | [中略] ペ：キスして Kate | ケ：
脳天をぶちわるわよ pate | ペ：そうふくれなさんな pout | ケ：打ちのめすわよ out | ペ：なにより
のご褒美だ prize | ケ：目に黒あざをつけるわよ your eyes. | ペ：早くキスして quick | ケ：お尻を
蹴りあげるわよ kick | ペほか：キスして | ケ：げす男 Bounder! | 他の人達：好みじゃない He's
not her dish. | ペほか：キスして | ケ：どじ男 Flounder! | 他の人達：お嫌いだ A type of fish she
would not wish. | ペほか：キスして | ケ：卑怯者 Dastard! | 他の人達：今の聞いた？ | ペほか：キ
スして | ケ：ろくでなし Bastard! | 他の人達：まあ何て口汚い言葉 | [中略] ペと女達：キスして
| 男達と女達：キスして | ケ：いや Never! [17回反復] | ペほか：キスして Kiss me (him) [17回
反復]。ペはベトルーキオ、ケはケイト（キャサリン）を示す。

キャサリンによる罵倒語の漸層法的な連続使用と、変化に富んだ Never の反復と発声法に大きな
特色がある。Never の引き伸ばしだけでも聞きごたえがある。彼女のだんだん下品になる言葉遣い
は、以下のとおり。Go! 「行って!」、Nay! 「いやよ!」、Away 「かつてに行って!」、Kindly drop
dead! 「消えて!」、You swine. 「恥しらず」、I'll crack your pate. 「脳天をぶちわるわよ」、I'll knock
you out. 「打ちのめすわよ」、I'll black your eyes. 「目に黒あざをつけるわよ」、Your rump I'll kick
「お尻を蹴りあげるわよ」、Bounder! 「げす男」、Flounder! 「どじ男」、Dastard! 「卑怯者」、Bas-
tard! 「ろくでなし」。戯訳である。Nay と Away、Bounder と Flounder、Dastard と Bastard は対応し
ている。He's not her dish. 「好みじゃない」と A type of fish she would not wish. 「お嫌いだ」の面
白い表現にも注意されたい。直訳は「彼は彼女の皿じゃない」「彼女はこの手の魚を欲しがらない」
である。

Too Darn Hot「ヴァース 1：暑すぎ | 今夜はあの娘と夕食をして I'd like to sup | 仲良くしたいと
こだけど And play the pup | その気になれない But I ain't up | 暑すぎ || 暑すぎ | 今夜はあの娘の家に
寄って I'd like to stop | ハッスルしたいとこだけど And blow my top | 無理 But I'd be a flop | 暑すぎ
|| 暑すぎ | 今夜はあの娘といちゃいちゃして I'd like to fool | はめをはずしたいとこだけど Break
ev'ry rule | 枕を抱こう But, pillow, you'll be | 暑すぎ || リフレイン 1：キンゼイ報告によると Report
| 男性はふつう know | はりきるのは sport | 気温が低いとき low | 気温が上がって | 焼けつくよう
に暑い日は | アダム氏も Adam | マダムと madam | うまういかない | 暑すぎ || ヴァース 2：暑すぎ
| 今夜はあの娘を呼び出して I'd like to call | がんばりたいとこだけど And give my all | だめ But I
can't play ball | 暑すぎ || 暑すぎ | 今夜はあの娘と会って I'd like to meet | はしゃぎたいとこだけど
Get off my feet | よそう But no repeat | 暑すぎ || 暑すぎ | 今夜はあの娘と甘いささやきをかわし I'd
like to coo | 一戦交えたいとこだけど And pitch some woo | 喧嘩になりそう But, brother, you bite | 暑
すぎ。」「今夜はあの娘と」の箇所は on, to, with などの前置詞と my baby tonight との結びつきによ
るものであり、各行の最後に来る。したがって、押韻は、ここでは脚韻ではなく、動詞句末に示
される。

曲名に含まれる darn は、damn より穏やかだが、「いまいましく」の意味の口語である。本曲は
「リズムカルだがそれだけではなく、上流社会のジャズという」⁽⁵¹⁾ 位置づけがなされる。性的な暗
示に富む。隠語が多すぎて、どれも性行為そのものか前戯をしめしているように思われる。‘play
the pup’ 「じゃれつく」、‘blow my top’ 「狂ったようにする」、‘be a flop’ 「だめである」、‘fool with’
「いじくる」、‘break ev'ry rule’ 「はめをはずす」 ‘play his favorite sport’ 「お気に入りの運動をする」、

‘give my all’「はりきる」、‘play ball’「事に移る」、‘get off my feet’「はしゃぐ」、‘repeat’「くりかえしする」、‘coo’「甘いささやきを交わす」、‘pitch some woo’「いちゃつく」、‘bite my baby’「私のかわい子ちゃんをかむ」など。

Where Is The Life That Late I Led? 「ヴァース：年頃になり puberty | 若い娘の巻毛を指でまさぐるようになって curls | ショーによくあるように Shuberty | 女には不自由したことがない girls | だが俺もついに身を固め last, am I | 華やかな日々は過去の話 past am I | リフレイン 1：これまでの人生はどこに？ led | もう終わった dead | あの愉快的な日々はどこ？ find | 風と共に去った wind | 結婚生活もいいが well | 子育ては大騒ぎとは大違い hell | 愚痴も出るさ | これまでの人生はどこに？ || パター 1：ミラノのモモ、君はどこ？ Momo | まだドゥオモで聖画を売ってるの？ Duomo | カロリーナ、君はどこ？ Lina | まだタオルミーナの街角でピザを売ってるの？ Taormina | フィレンツェのアリス、君はどこ？ Alice | まだあの美しい館にいるの？ Palace | 愛しのルクレチア、若く陽気な娘 gayee | まだポンペイ遺跡で破廉恥なことを？ Pompeii | リフレイン 2：結婚ごっこもいいが | 昼はよくても夜は退屈 | 愚痴も出るさ | これまでの人生はどこに？ || パター 2：レベッカ、君はどこ？ my Becki-weckio | またあの愉快的なポンテベッキオをうろついているの？ Ponte Vecchio | 男まさりのフェドーラ、君はどこ？ virago | シカゴギャングの妹と会えなくてよかった Chicago | 話好きのヴェネシア、君はどこ？ chat so | まだ薔薇色の酒臭い屋敷で酒浸りかい？ palazzo | 愛しいリサ、君はどこ？ Lisa | ピサの斜塔の本当の意味を教えてくれた Pisa」。

キャサリンに寝室の中から鍵をかけられ、入りたくても入れないペトルーキオが、女に不自由しなかった昔を思い退屈な夜を紛らすほやきの歌である。曲調がめまぐるしく変わる。歌詞はカタログ・ソング調で、過去に遊んだ女達のバリエーションが聴者を楽しませる。彼の情けない歌いかたも相俟って、ユーモラスな歌に仕上がっている。ルクレチアでは、「みだらな」の意味を併せもつ‘gay-ee’が現れている。この語は「まだポンペイの遺跡ではれんちなことを？」What scandalous doin’s in the ruins of Pompeii！に対応している。アリスでもペトルーキオの口調に滑稽化が感じられる。「まだあの美しい館にいるの？」Still there in your pretty, itty-bitty Pitti Palace? 男まさりのフェドーラと、アル中のヴェネシアから、いきおい皮肉な調子が強まる。「薔薇色の酒臭い屋敷で酒浸り」Could still she be drinkin’ in her stinkin’ pink palazzo? で、「薔薇色」は酒を飲んで顔が赤くなった色も示す。代換法的な解釈も可能である。「ピサの斜塔の本当の意味」You gave a new meaning to the leaning tow’r of Pisa. とは、斜塔が一定方向に傾いているので、男女で行けばすぐにくっついて仲よくなるという意味か。ピサの斜塔は、とにかくまっすぐ立っていられる場所ではない。

本曲の原型は Esmerelda (*Hands Up*, 1915) である。「この曲は、エズメレルダ、グリゼルダ、ロザリー、ラクメ、マリー、エレノーラ、ドーラ、イヴなどの女性の名を次々にあげながら、As I Love You と歌っている。この1915年という時点にあっても、これはまがいてもポーターである。悪戯っぽく、おかしく、韻の踏み方も見事で、どんな曲なのか私は聞いたことがないのだが、ほとんど口ずさんでみることができそうなのだ。いまだ未完成のポーターであるが、何と言ってもここには、いったん調子を掴んでからは20年代から50年代までたえず活躍し続けた人物の署名が決定的に認められる」⁽⁵²⁾。リフレインの箇所は次のとおり。「エズメレルダ | それからグリゼルダ | 3人目はロザリー | いとしのラクメー | 私を追ってきた | でも私はすてきなマリーに夢中 | エレノーラに | ドーラがつづいた | それから青い眼をしたイヴがきた | でも君ほど | 好きになった娘はいない」。Esmerelda の楽譜は1995年に Masters Music から発売されている⁽⁵³⁾。

本曲には、S. Citron による詳細な譜面分析がある。「フォーム：この最高に面白い曲はポリグロットであり、ころころ変わる曲調とセクションの変化はユーモアに大きく貢献している。イタリアに古くからある舞曲曲、ヴェネチアの舟歌やソレントのカンツォーネから借りてきた形式を *Kiss Me, Kate* の他の多くの曲と共有。24小節のヴァース（16は速いテンポで、8は遅いテンポ）で始まり、賑やかなタランテラのコラスへと導かれる。タランテラは、32小節からなる完全協和音で、A1、A2、ブリッジ、A3のセクションに分かれる。それから、見せかけの真面目さに満ちた間奏曲がくり返される。コラスと間奏曲は2度くり返され、元気なコラスとオペラのようなカデンツァで終わる」。

「メロディ：ヴァースは、アリアとショー編曲の中間に落ちつき、長調と短調の間に置かれて、ナポリから来た雰囲気を出し、Iのうえに装飾音がついたコラスも、シチリアのものである。パターンは短調と長調が半々で、ヴェネチアの舟歌のように響く。この力強い歌唱は、Alfred Drake のしなやかな声のために書かれたように、1オクターヴと9度音程のみを使うカデンツァを含む」。

「リリック：最も該博で機知に富んだ歌詞。時代錯誤とショービジネスとエリザベス朝表現のゴチャ混ぜ様式がショーストップを余儀なくさせる」。

「ハーモニー：ヴァースは、C調ではじまり、マイナー基調の自由な散布を行いながら、コラスのためのステージをF調で用意。ポーターがヴァースの最後までナポリ風の第6和音の3小節を使っている点に注意されたい。A1とA2は、主音の支配的な和音を使い、A2ブリッジはDマイナーに向かって小さな脱線を引き起こす。しかし、本曲の真の楽しさとユーモアはパターンにある。主旋律はくり返され、4小節後にうまく長調化されている。リズム：イタリア風のリズムとテンポを多用することで、このカンツォーネは、大きな変化を得ている。最も明白な変化は、コラスを6/8拍子で、パターンを4/4拍子で保つことからくるリズム交替である。調和のリズムに大きな変化がある。同一和音が2小節続いたり、和音が半小節ずつシフトする」⁽⁵⁴⁾

Always True To You In My Fashion 男に色目を使うロイスに「いい子にして behave」と諭す恋人のビル。ロイスは歌う。「ヴァース：なぜ妬くの？ | あなたの虜なのに slave | あなたに夢中 | これからもずっと | でももちろん || リフレイン 1：あつらえ服の軍人さんに vet | 誘惑されて wet | 優しく愛撫されたら pet、心のなかで「万歳！」と叫ぶ Hooray! | でも私はいつだってあなたに誠実 | そう私なりのやり方で way || 彼に優しく口説かれるのは楽しい pass | ボストンの子牛、普通の男の子よ Mass | 地位 middle-class やお金がなくても Black Bay! | でも私はいつだってあなたに誠実 | そう私なりのやり方で way || マックのような変な男も Mac | 誘ってくるけど attack | キャディラックを買ってくれるならオッケー Okay | でも私はいつだってあなたに誠実 | そう私なりのやり方で way ||

リフレイン 2：鉄鋼業界の大物から steel | 食事の誘い meal | お金をくれるなら deal、受けてもいい may | でも私はいつだってあなたに誠実 | そう私なりのやり方で way || 口元をゆがめないのは lip | 眩いばかりのダイヤのクリップ clip | ダイヤのクリップがはめをはずすこと let'er rip を意味してもいい Nay! | でも私はいつだってあなたに誠実 | そう私なりのやり方で way || 石油王のテックスは Tex | よく小切手をくれるけど checks | 私を引き止めるため？ stay | でも私はいつだってあなたに誠実 | そう私なりのやり方で way ||

リフレイン 3：お金持ちのヒンドゥー教のお坊さん priest | むつつりすけべの色坊主 least | 彼が極東に行くことになっても、ついてくわ stray! | でも私はいつだってあなたに誠実 | そう私なりの

やり方で way || ポートランドの飲んだくれ Ore | お金持ちだけど退屈でうんざり bore | ベッドで酔いつぶれたら、ほっとくわ lay | でも私はいつだってあなたに誠実 | そう私なりのやり方で way || 大富豪のハリスさん plutocrat | お尻を触りたがる pat | そのお触りが Harris pat | パリの帽子をくれるって意味ならオ・ラ・ラ Paris hat. Bebe, Oo-la-la | デモ私ハイツダッテアナタニ誠実 Mais je suis toujours fidele, darlin', in my fashion, | ソウ私なりのやり方で Oui, je suis toujours fidèle, darlin', in my way. ||

リフレイン 4: オハイオのソーンさんから Thorne | 朝晩電話 morn | とうもろこし corn を買い占めて大儲け hay! | でも私はいつだってあなたに誠実 | そう私なりのやり方で way || ミルウォーキーのフリッツさんは Fritz | よくリッツへ連れてってくれる Ritz | フリッツさんはシュリッツ Schlitz 好きで遊び好き play | でも私はいつだってあなたに誠実 | そう私なりのやり方で way || ゲーブルさんが、クラークよ Clark | 私をヨットに招待 park | ゲーブルさんの船に乗れば Gable boat | セーブルの毛皮を買ってもらえるなら sable coat | 錨をあげて! aweigh! | でも私はいつだってあなたに誠実 | そう私なりのやり方で way】。

ここでは、ヴァースとリフレインのあいだに、小さな曲調の変化はあるが、それ以上に「でももちろん」を境とする前後の歌詞の内容に大きな対比がみられる。しかも、各リフレインでも、その最後のフレーズ「でも私はいつだってあなたに誠実 | そう私なりのやり方で」と、男性遍歴を披露する箇所との間にもコントラストがある。実際、ミュージカルでは、ロイスがこれまでつきあってきた男のことを歌うと、部屋からビルが飛び出してくる。するとロイスは、「でも私はいつだってあなたに誠実よ | そう私なりのやり方で」とビルをたしなめる。そのくり返しが対比の効果を大きくする。

新人女優のロイスは、浮気性で金に執着が強く、やくざなビルを心から愛しているのに、金持ちとの大人の関係をやめるつもりはない。このアンビバレンスは、ポーター自身のものである。才色兼備で大富豪の女性リングと結婚したものの、新婚当初からセックスレスの夫婦で、ポーターは男と一夜を過ごすのが常であった。ポーターの曲は、愛人男性のために書かれたと考えるとき、すべてはアイロニーと深みを帯びる。「私なりにいつも誠実」とは面白い表現もあったものだ。in my fashion や in my way と always true は撞着語法をなしていて、always は限定辞とは相容れない。この表現は、男性経験が豊富にみえる女友達から処女といわれるような対比を含む。不誠実な行為が一面の誠実とみなされるとき、レトリックが顔を出す。浮気者の夫の理屈はいつでもそうだが、よその女と何人寝ようと妻を心から愛していて別れる気はないという身勝手な動機づけがある。

こうしてロイスの男性遍歴ぶりが、カタログソング的に臆面もなく披露される。誂え服を着た退役軍人、ボストンの子牛、変人のマック、鉄鋼業界の大物、石油王テックス、金持ちのヒンドゥー僧、ポートランドの飲んだくれ、ミルウォーキーのフリッツ、大富豪のハリス、オハイオのソーン、最後に、映画俳優のクラーク・ゲーブルと、ロイスの男は多彩である。こうした人物の列挙のなかで、不對法、バランスくずしの原則から、ひとつだけ異質な要素が混じる。それがダイヤである。ロイスが男性と付き合う基準は、ほとんどの場合、金持ちかどうかだから、人物の大半は金を象徴している。その意味では、ダイヤも、そのなかに並べられて、違和感がない。また一部にフランス語文が使われて、変化が与えられる。

From This Moment On「ヴァース：二人が結ばれた今 close | 憂鬱な夜が終わる morose | 二人が結

ばれた今 one | ビギンが流れる begun | 二人寄り添えば side | 未来は明るく見える gay | そうさ alibied | というのも say : || リフレイン : この瞬間から | 君は僕のもの dear | 紅茶も二人だけ dear | この瞬間から | この幸せな日から | 悲しい歌は終わり songs | 陽気な歌ばかり songs | この瞬間から | あなたの愛が必要 much | あなたに触れていたい touch | 強く抱きしめて tight | すてきな夜の甘い口づけも忘れないで night | この瞬間から | 二人で babe | 幸せになるの babe | 不安はない gone | この瞬間から on || 幕間狂言 : いとしい人 My dear one | すてきな人 My fair one | 太陽さん My sunbeam | お月さん My moonbeam | 青い鳥 My bluebird | 愛の鳥 My lovebird | 理想の人 My dreamboat | シュークリーム My cream puff | おまえ My ducky | あなた My wucky | 可愛いこちゃん My poopsy | いけない人 My woopsy | ベイビー My tootsy | ダーリン My wootsy | クッキー My cooky | ハニー My wooky | こ豚ちゃん My piggy | お熱ちゃん My wiggy | シュガー My sugar | スイート My sweet | 何てすてきなんだろう We repeat。

本曲は、初演版には入っていない。もともとの曲は、*Out Of This World* (1950) というミュージカル劇のために書かれた曲であるから、初演版に挿入されていないのは当然である。本曲では、ヴァースとリフレインとのあいだで、大きな曲調の変化がみられる。ヴァースはしばしば曲に格調を与える。ポーターに *I Love You* (*Mexican Hayride*, 1943) という曲がある。この曲はリフレインのみで聴くと甘いラヴソングにしか聞こえない。「五線譜のラブライター」*De-Lovely* (2004) のなかに、この曲がいかにも友人と語らっているあいだに簡単につくられたかのような描きかたをした場面がある。それはフィクションである。そのときは安っぽい恋のうたという印象しかなかった。しかし W. Evans が原曲をヴァース付きで歌いあげているのを耳にして、筆者はその重厚さに驚いた⁽⁵⁵⁾。ヴァースとともに聴くと、壮大な叙事性さえ感じられる。音調の変化によるヴァースとリフレインのギャップが大きい。I. Berlin はポーターの曲を「あの長い歌」と茶化していた。しかし、この長さは必然的なもので、ヴァースとリフレインはセットになることで大きな対比を生む。

本曲は、真面目な恋の歌かと思いきや、急に滑稽な調子になり、幕間狂言で終わる。再演版映像では、リフレインの最後で、ハウエル將軍が声を張り上げて歌うものだから、リリはあきれて、「この人、大丈夫かしら」というような怪訝な顔を見せる。幕間狂言でも、ハウエルは、軍人の威厳も体面もどこかに置き忘れたかのようなおのろけぶりを披露する。お金も地位もある將軍に、滑稽な歌いかたをさせることで、こんな男と結婚するぐらいなら、貧乏でもフレッドのほうがましと観客に思わせるような演出をしたかったのだろう。この狂言に登場する恋人の呼び名は多すぎて日本語にしにくい。これらの愛称は、My の頭語反復と、頭韻や脚韻といった押韻によって、リズムが整えられている。一部はポーターの造語である。彼には、*De-Lovely* のように、調子が整わないときには、造語をおこなう傾向がある。

1948年の初演版と1953年の映画版では、羽振りのよい医師会会長、牧場経営者であったリリの恋人が、1999年以降のリバイバル作品では、副大統領でもなろうかという將軍に設定が替わっているが、ロイスと関係をもっていることには変わりがない。もっとも、初演版でも、キャラクターの演出で面白いことに、リリの恋人は、「じゃじゃ馬馴らし」のグレミオのように老人で、「南部の牧場で、社交を楽しむ機会もなく、二人きりで馬に乗り、食事毎にうたた寝をする単純で年寄りくさい生活。あげくのはて、フレッドの昼寝という言葉のくり返しはハリソンを本当に眠りこませてしまう」⁽⁵⁶⁾のは傑作である。「男なんか大嫌い」のなかにも、「若気のいたりで年寄りと結婚したら | 夜はいつも家にいて、物分りはいいけど | それは愛じゃなくて、リ्यूマチのせい | あ

あ、男なんか大嫌い」というくだりがあり、初演版のハリソンの特徴とぴったり合う。

Bianca「ヴァース 1：リハーサル中に Bianca | ビアンカに恋をした adore | 舞台を降りたら found | 尻軽だとわかった around | でも忘れられず more | ラブソングを書いた | だが僕は素人 amateur | 歌うから through | みんなの前でさ you | バッチリかどうか her | 聞いてくれ || リフレイン：ビアンカ Bianca | 僕のものに | ビアンカ Bianca | ならないとお仕置きだ Poppa spanka | ビアンカ、君を手に入れるためなら Bianca | 何だってする do | コーヒーもサンカにする Sanka[再演版ではリフレイン 2] | カサブランカまで泳いでもいい Casablanca [再演版ではリフレイン 1] | サンカ、ビアンカ、君のためなら you [再演版ではリフレイン 2] | 愛しいビアンカ、君のためなら you [再演版ではリフレイン 1]」。再演版映像では、ビルは、本曲を歌った後で、コメディ・デラルテの伝統に沿うようなかたちで、アクロバットを披露して 3 階のロイスに会いに行く⁽⁵⁷⁾。

ロイスに対するビルの素直な愛の気持ちを歌にした感傷的で珍妙なラブソングである。Offstage I found / She's been around / But I still love her more and more「舞台を降りたら | 尻軽だとわかった | でも忘れられず」の歌詞は「私なりに誠実」のような矛盾を含む。また You'd better answer yes or Poppa spanka. 「僕のものに | ならないとお仕置きだ」という表現には、*Kiss Me, Kate* を意識した滑稽化の意図がみられる。ポーターの本来のリフレイン 1 では、ビアンカを自分のものにするためなら、I would gladly give up coffee for Sanka, 「サンカのコーヒーにする」と、言っていたものが、再演版では、I would swim from here to far Casablanca 「カサブランカまで泳いでもいい」という表現に変えられ、替え歌的な歌詞が採用されている。サンカのカフェイン抜きコーヒーが時代とともに一般的な比喩でなくなったと判断されたためであろうか。

Brush Up Your Shakespeare ヴァース：上流社会の女は society | 古典詩に目がない poetry | ハートを射止めるには ease | アイスキュロスやエウリピデス Euripides | ホメロスに Bo | ソフォクレスに サッフォーさ Sappho-ho | シェリーやキーツやポーブでもいい Pope | 好みのうるさい社交界の女達は麻薬と呼ぶ dope | なかでも all | いいのは | かの有名な詩人 call | ストラットフォードの文人さ || リフレイン 1：シェイクスピアを Shakespeare | 引用しよう now | そうすれば Shakespeare | 女は大喜び wow | 「オセロ」から数行とれば *Othella* | 大した男と感心する helluva fella | ブロンド娘がほめ言葉に乗らないときは flatter'er | アントニーがクレオパトラに言った台詞 Cleopaterer | 散らかした服のことで、彼女と口げんか mussing | 服がなんだ「から騒ぎ」だ *Much Ado About Nussing* | シェイクスピアを引用すれば | 敬愛される kowtow ||

リフレイン 2：大使夫人なら embessida | 「トロイラスとクレシダ」から引用 *Troillus and Cressida* | 乗ってこなかったら tike it | 「お気に召すまま」乗せよう *As You Like It* | あなたの態度に文句を言うなら heinous | 「コリオレイナス」で右キック *Coriolanus* | シェイクスピアを引用すれば | 敬愛される || リフレイン 3：「ハムレット」を気取る be a ham and do *Hamlet* | 必要はない give a damn or a damnlet | たまに詩を口にすれば sonnet | 女はいちころ Honey up on it | 甘えてきたら for pleasure | 「尺には尺」を手本にしよう *Measure for Measure* | シェイクスピアを引用すれば | 敬愛される ||

リフレイン 4：「ヴェニスの商人」流で *The Merchant of Venice* | 愛しい肉塊を脅かすとき menace | 女が拒んだら、よし well | 「終わりよければ全てよし」*All's Well That End's Well* | 彼女がボーナスをくれなかったら bonus | ヴィーナスがアドニスから何を得たか知ってのとおり Adonis! | シェ

イクスピアを引用すれば | 敬愛される | リフレイン 5 : 夢みる娘なら a Washington Heights dream, | 「真夏の夜の夢」を与えてやれ A *Midsummer Night's Dream* | 一人寝を望むなら all-by-herself night | 十一か「十二夜」休ませよう *Twelfth Night* | 浮気に腹をたてたら huffy | 「マクダフ」流に演じよう *Lay on, Macduff* | シェイクスピアを引用すれば | 敬愛される。

本曲は「かなり巧妙な早口上タイプの歌で、役者の特徴をいかすように歌詞が工夫されて」⁽⁵⁸⁾ いる。カタログソングに近く、「オセロ」「アントニーとクレオパトラ」「から騒ぎ」「トロイラスとクレシダ」「お気に召すまま」「コリオレイナス」「ハムレット」「尺には尺」「ヴェニスの商人」「終わりよければすべてよし」「真夏の夜の夢」「十二夜」「マクダフ」と、シェイクスピアの作品名尽くしでリズムよく歌われる。シェイクスピアの作品名を使った掛け言葉に注意されたい。マラプロピズム⁽⁵⁹⁾と呼ばれることもあるが、レトリックの世界では、パロノメイジャと呼ばれる。押韻の箇所には原語を示した。

ギャングとシェイクスピアの取り合わせには矛盾が感じられる。教養を身につけたギャングという発想はポーターの「やくざ紳士」を思わせる。彼が14～18歳（1905-09）のとき、ウースター学院在籍当時に書いたとされる曲に、*The Bearded Lady*「ひげの貴婦人」と *The Tattooed Gentleman*「やくざ紳士」がある。歌詞原稿は失われ曲目を残すのみだが、形容詞と名詞の撞着語法的な結びつきをみると、ポーターがこのときすでに屈折したものの考えかたをしていたことがわかる⁽⁶⁰⁾。長年アトランタの刑務所に入っていたために、図書館で本を読んで得た知識を振り回すギャングという発想は、最初からシニカルなもので、「シェイクスピアを引用しよう」のなかでも、アイロニーと滑稽化が広がっている。J. P. Swain は書いている。「しかしながら、皮肉なユーモアの最も明白な源泉は、ポーターがシェイクスピアの作品名からつくる常軌を逸した押韻とだんだん下品になる比喩のなかにある。ポーターのトレードマークの強制押韻はこれまでよりよい。」⁽⁶¹⁾。

I Am Ashamed That Women Are So Simple「女の愚かさを恥じる | 膝まずいて平和を求める時に宣戦布告 | 支配権や至上権や指揮権を求めてはだめ sway | 仕え愛し従う定めなのに obey | 女の肌は柔らかで、弱くなめらか | 争いには向かない | 性格も心も優しくあれ hearts | 肉体に合わせて parts | だから妻よ、怒ってはだめ put | 手を夫の足元に置くの foot | 夫が望むなら従順の証として please | いつ手を踏まれてもいい ease」。

ここでポーターは、*Taming Of The Shrew* の言葉（第5幕第2場、161～79行）を、ほとんどそのまま使っている。変更点は次のとおり⁽⁶²⁾。And place your hands below your husband's foot. 「夫の足元に手を置きなさい」が、So, wife, hold your temper and meekly put / Your hand'neath the sole of your husband's foot, 「だから妻達よ、怒ってはだめ | 手を夫の足元に置くの」に変えられた。My hand is ready, Ready, May it do him ease. 「いつ手を踏まれてもいい」の箇所において、「じゃじゃ馬馴らし」の原文には ready の反復はない。曲を聴くと、この ready のくり返しはさびが利いていて、聴者の心を打つ。このマゾヒスティックな表現は、「こんなに好き」の So taunt me, hurt me, deceive me, desert me「ののしられ、傷つけられ、だまされ、捨てられても [いい]」と呼応している。

Finale, Act II「ペトルーキオ：キスして | ケイト：愛しい人！Caro! | ペ：何度でも thrice | ケ：最愛の人！Carissimo! | ペ：さあ踏み出そう | ケ：すてき！Bello! | ペ：極楽三昧を paradise | ケ：最高！Bellissimo! | ペほか：キスして | ケ：早く！Presto! | ペほか：神々しい天使！ | ケ：今すぐ！Prestissimo! | ペ：君は俺のもの | ケ：あなたは私のもの」。ここでは、キャサリンは、イタリ

ア語源の絶対最上級-issimo の使用によって、愛への同意を示すべく、ペトルーキオの言葉に力強く晴れやかに答えているのが目をひく。賛辞の漸層法 *Caro!* → *Carissimo!*、*Bello!* → *Bellissimo!*、*Presto!* → *Prestissimo!* は心地よい余韻を観客に与える。ミュージカルでは男女の対話のパートが変わる。日本語では *You are mine.* に「君は俺のもの」と「あなたは私のもの」に分けて訳す必要がある。英語では歌手の性別に人称代名詞や補助動詞の表現を変えてやる必要がない。これまでもそうであったが、両性具有的なポーターの曲には中性的な英語がよく適合している。

まとめにかかろう。「私なりにいつも誠実」は、愛も欲しいがお金も欲しいといったロイスのちゃっかりした女心を撞着語法的に示していた。「結婚相手は誰でもいい」でも、来るべき結婚に際して、お金をとるか、家柄をとるか、愛をとるかで揺れるビアンカの女心を三者の突合せによって表現していた。ロイス（ビアンカ）のアンビバレンスは、ポーターのものである。彼は同性愛者で、リンダと結婚後も男遊びをやめなかった。最初からセックスレスの夫婦ではあったが、ポーターは彼なりにリンダを愛していた。「私なり」の「誠実」とは、世間的にみれば「不誠実」である。「男（女）遊びは続けるが、おまえを愛してる」とは浮気者の言いそうな理屈である。この気持ちは屈折した感情として理解できる。ポーターの曲は両性具有的であり、異性愛にも同性愛にも通じる普遍性をもっている。

ペトルーキオは、「あなたの特別な美貌」で、歯の浮くような愛の告白をキャサリンにする。彼の反語的な言動はポーターのほめ殺しの精神を具現していた。「金持ちの妻をめとりにパドヴァへ」のなかで、かれは拝金主義のひねた歌詞をまくしたてる。この皮肉なユーモアもポーターのものである。「シェイクスピアを引用しよう」では、作品名を使った「だんだん下品になる強制押韻」に特色があった。ギャングとシェイクスピアとの奇妙な組み合わせにも注意されたい。「やくざ紳士」というポーター幼時の撞着語法的な発想が顔を覗かせる。「暑すぎ」では隠語の積み重ねを通して徹底した性的暗示がみられた。「キス・ミー、ケイト」における罵倒辞と「フィナーレ」における賞賛辞の漸層法的な連続使用は呼応していた。キスしろと迫るフレッドに徹底抗戦するキャサリンによる、*Never* の反復と特異な発声法は、「男なんて大嫌い」の大音声と共に、聴者の注意を引きつけずにはおかない。

「幕があいたら別なショー」では、曲のテンポに変化がみられた。舞台が始まる前の早朝の静けさと役者達が次々と到着する喧騒を漸層法的に表現する。「これまでの人生はどこに」は度重なる曲調の変化を含む。早口口上と過去の様々な女を回顧するイタリア風のゆったりとした歌いとの間で、調子が変わる。「ヴェニスで幕があく」では、重唱の早口口上に特徴があり、曲のテンポにも変化がみられた。「この瞬間から」にはヴァースとリフレインのあいだで大きな曲調の変化があった。真面目から不真面目へ、ロマンティックから茶番への移行である。それは幕間狂言で対照法的に補強され、滑稽化の手段となっていた。「男なんか大嫌い」も、曲調の変化を含む。本曲の騒々しさは *Kiss Me, Kate* 全体のハイコントラスト空間の構築に重要な役割を果たす。キャサリンは、「男なんか大嫌い」でヒステリー女の癪癢を大げさに表現し、「女の愚かさを恥じる」では、物静かに貞淑を説く。やかましい曲と小道具が入ることで、フィナーレが引き立つ構成の妙がある。

リリとフレッドのソロで繰り返される「こんなに好き」は、「センチメンタルな激情型ビギン」として、喜劇全体のなかで別格のドラマティックな存在感を示す。「すてき」はリリとフレッドが楽しかった新婚時代を振り返るロマンティックなデュエットのワルツ曲で、会えば喧嘩をする彼

らのつかの間の素直さを演出する。「いい子にして」はビルに堅気になってもらいたいロイスの切なる願いを込めた感傷的な歌で、「私なりに誠実」に代表されるような彼女の普段のすれた言動と対比をなす。ロイスに対する愛の気持ちを訴えるビルの「ピアノカ」も感傷的な曲で、「いい子にして」と対応し、普段とは違ったビルの不器用な素朴さを表現する。「愛を歌おう」は、巷に愛があふれていることを強調するカンツォーネ風の明るく勇壮な愛の讃歌で、愛の拒絶に終わる第1幕フィナーレと対比をなす。

ポーターの歌詞の原文引用が音楽著作権の関係で十分にできなかったので、引用不足ととれる箇所があったかもしれない。だがポーターの歌曲における豊かなコントラストと深いアンビバレンスの存在は明らかになった。賞賛と罵倒、上品と下品、真面目と不真面目との不対法的な二極化がポーター作品の基調をなす。彼の音楽は、プルーストの小説のように、共示で満たされている。*Kiss Me, Kate* は、ポーターの曲なしにはあり得なかったミュージカルではあるが、彼の才能を認めたスピーワック夫妻の脚本もよくできており、登場人物達の言動も含めた全体のハイコントラスト空間の解明が待たれる。しかし、このテーマはポーターと直接的な関連性を持たないため、別稿に譲る。なお本稿は平成19年度本学特別研究助成の成果の一部をなす。

註

- (1) cf. Robert Kimball, *The Complete Lyrics of Cole Porter*, Da Capo Press, 1992.
- (2) 音楽作品には音楽著作権がつく。学術利用であっても、歌詞や譜面をきちんと引用できない。現在、ポーターの詞と曲の著作権は、ポーター財団が管理している。詳細は、公式ウェブサイト Cole Wide Web (<http://www.coleporter.org/>) を参照されたい。
- (3) レトリックの精神とは、物事の裏面を考えて、矛盾する表現も時には辞さないような、多面的な現実を表現化しようとする修辭的姿勢をいう。
- (4) 不対法は、漱石の『文学論』の用語で、上品な表現のなかに下品な表現を混ぜて人の意表を突くという文体手法を指す。秋山公男『漱石文学考説』（おうふう1994）を参照。
- (5) cf. Cole Porter, *Red Hot + Blue: A Tribute To Cole Porter*, Chrysalis, 1990.
- (6) cf. Proust, *Cole Porter, Michelangelo, Marc Almond and Me*, Routledge, 1993. 全米同性愛協会編
- (7) cf. Stephen Citron, *Noel and Cole*, Hal Leonard, 2005.
- (8) cf. Joseph Morella, *Genius and Lust*, Carroll & Graf Pub, 1995.
- (9) cf. Calvin Tomkins, *Living Well Is the Best Revenge*, Dutton, 1982.
- (10) 玉崎紀子・酒井正志、『欧米演劇を語る』、勁草書房、2002、pp. 122-3。当時ポーターの周辺には成功したユダヤ人作曲家がたくさんいた。J. Kern (1885-1945)、I. Berlin (1888-1989)、G. Gershwin (1898-1937)、R. Rodgers (1902-79)、D. Milhaud (1892-1974)。
- (11) Alan Jay Lerner, *The Musical Theatre*, Da Capo Press, 1989, p. 124
- (12) 玉崎・酒井、前掲書、p. 157
- (13) 「五線譜のラブレター」（2004）フォックス2005 K. クラインがポーター役の伝記映画
- (14) 最初のカタログソングは、*Let's Do It, Let's Fall In Love* (Paris, 1928) である。この曲は、いろいろな生物達「鳥、蜂、蚤、海綿、牡蠣、蛤、くらげ、うなぎ、にしん、ひらめ、金魚、とんぼ、むかで、蚊、きりぎりす、てんとう虫、いなご」も交尾をしていることを強調することによって、われわれも動物のように恋をしようと誘いかけるものであった。それらの生物に混じって「豆」がぼつんと顔を出し、ポーターのユーモアを示していた。
- (15) Waldorf はマンハッタンにあるアメリカを代表する高級ホテルで、当時は1893年に建てられた13階建てのホテルを指す。
- (16) James Francis Durante (1893-1980) は Schnozzola 「でかつ鼻」のあだ名で人気を博したアメリカの喜劇役者。

- (17) Pepsodent はアメリカの歯磨き粉メーカー。
- (18) Roxy は1927年にオープンし、1960年に取り壊されたニューヨークの映画館。
- (19) cf. *You're The Top: The Cole Porter Story* (1990), Columbia, 2000 : Charles Schwartz, *Cole Porter : a Biography*, Da Capo Press, 1979, pp.180-1
- (20) Alec Wilder, *American Popular Song*, Oxford University Press, 1972, p. 249
- (21) A. J. Lerner, *op. cit.*, p. 237
- (22) 初演版の楽譜 *Kiss Me, Kate*, Piano-Vocal Score, Hal Leonard, 1981.
- (23) cf. Samuel Spewack, Bella Spewack, *Kiss Me, Kate. A Musical* (Fremdsprachentexte), James Bean, Reclam, 2001. : Stanley Richards, *Great Musicals of the American Theatre: Volume One*, Chilton, 1973, pp. 213-277. レトリックの精神をもつ夫妻が *Kiss Me, Kate* の音楽担当としてポーターを強力に推薦したとされる。
- (24) A. J. Lerner, *op. cit.*, p.238
- (25) *ibid.*, p.237. *Journal American* 紙評。
- (26) 20世紀最大の詩人のひとりといわれる W. H. Auden (1907-73) 氏評。William McBrien, *Cole Porter, A Biography*, Albert A. Knopf, 1998, p.303
- (27) シェイクスピアのテキストについては、『シェイクスピア大全』、CD版、新潮社／NEC インターチャネル、2003. を参照されたい。本盤は、アーデン版の原作もおさめ、検索の使いがってからみて、最良のシェイクスピア全集である。『じゃじゃ馬ならし』のテキストについては、小田島雄志、福田恒存、大山敏子、坪内逍遙の4氏評を収録している。
- (28) 再演版の楽譜 *Kiss Me, Kate*, Piano-Vocal Selection, Hal Leonard, 1999.
- (29) 東宝創立70周年記念公演は、2002年7月3日に帝国劇場で開幕し、7月27日に閉幕。主演：一路真輝（リリ） | 今井清隆（フレッド）。
- (30) MGM 映画版は、監督 G. Sidney、主演 K. Greyson と H. Keel。また PBS テレビ版は基本的には1999年の再演版と同じで、演出 M. Brakemore、主演 L. York と B. Baretto。
- (31) 「キス・ミー、ケイト」(1953) ワーナーホームビデオ2006。「キス・ミー、ケイト」(2002) TDK コア2006。初演版も実は1958年に NBC テレビで放送されている。
- (32) 作品の舞台は1948年のボルティモア。スピーワック夫妻の台本と再演版脚本とでは、ハリソン・ハウエルの人物設定（広大な土地をもつ居眠り老人の医師会会長から規律に厳しいがどこか間の抜けた将軍への移行）と「この瞬間から」の曲の追加など一部内容が異なる。
- (33) cf. *Kiss Me, Kate*, Broadway Revival Cast, DRG, 2000. 再演版の定盤音源
- (34) cf. *Kiss Me, Kate*, Original Broadway Cast, Sony, 1998. 最初のリマスター盤
- (35) cf. Robert Kimball, *The Complete Lyrics of Cole Porter*, Da Capo Press, 1992.
- (36) cf. *Kiss Me, Kate* (1990), Cast Recording, 2 CDs, EMI Angel, 1990. 未使用曲を含む
- (37) A. Wilder, *op. cit.*, pp. 249-50
- (38) *ibid.*, p. 250
- (39) *ibid.*
- (40) 「こんなに好き」のメロディはポーターの曲のなかでもっとも日本人に知られているものであろう。長らく淀川長治の「日曜洋画劇場」（テレビ朝日系）のエンディング（1966-）を飾っていたからである。もっとも、エンディングに使われていたのは、モートン・グールドの編曲によるもので、「題名のない音楽会」でもかつて試験的に流したことがあった。
- (41) cf. Morton Gould and His Orchestra, *Curtain Time*, LP, Columbia, 1951.
- (42) cf. Robert Kimball, *The Complete Lyrics of Cole Porter*, Da Capo Press, 1992.
- (43) 玉崎紀子・酒井正志、前掲書、p.130
- (44) A. Wilder, *op. cit.*, p.250
- (45) ビギンは、西インド諸島の民族音楽のひとつで、ポーターはその強い影響を受けた。
- (46) 玉崎紀子・酒井正志、前掲書、p.130
- (47) *ibid.*, p. 158

- (48) S. Citron, *Noel and Cole*, Hal Leonard, 2005, pp. 306-7
- (49) A. Wilder, *op. cit.*, p. 250
- (50) *ibid.*
- (51) リフレイン 1 の最後の 4 行とリフレイン 2 の最初の 6 行は、最終版では削除された。「現代人からアダムまで、男はみんな大嫌い Adam | 主はお許しにならなかったが、アダムはケインとアベルの父となった'em | ベティ・グレーブル [1916-1973アメリカ女優] は結婚したけど、私はケインもアベル也大嫌い'em | ああ、男なんか大嫌い || リフレイン 2 : 男なんか大嫌い men | 子豚達のように囲いのなかで飼われるべきよ pen | あなたはチャーマーミングで明るいから、船乗りジャックにくどかれるかもしれない chipper | でも彼を仲間にすれば船長になれる skipper | 船乗りジャックは悪乗りしすぎるから。切り裂きジャックを覚えてる? Ripper | ああ、男なんか大嫌い。」
- (52) A. Wilder, *op. cit.*, p. 250
- (53) A. J. Lerner, *op. cit.*, p. 121
- (54) cf. Cole Porter, *The Collected Songs*, Vol. I : 1916-19, Masters Music, 1995.
- (55) S. Citron, *op. cit.*, pp. 307-9
- (56) cf. *Mexican Hayride* (1944), Original Broadway, Decca, 2004.
- (57) 玉崎紀子・酒井正志、前掲書、pp 140-41
- (58) コメディ・デラルテの伝統については同書に詳しい。
- (59) A. Wilder, *op. cit.*, p. 250
- (60) R. B. シェリダンの喜劇『ライバル達』に登場するマラブプロ婦人の名前に由来する、音の類似による言葉のこっけいな誤用。
- (61) cf. Robert Kimball, *The Complete Lyrics of Cole Porter*, Da Capo Press, 1992.
- (62) J. P. Swain, *The Broadway Musical, Scarecrow*, 2th ed., 2002, p. 147
- (63) CD 版「シェイクスピア大全」(新潮社2003)を参照。

Cole Porter と *Kiss Me, Kate* 関連の文献・音源・映像資料

ポーター基礎文献

- Robert Kimball, *The Complete Lyrics of Cole Porter*, Da Capo Press, 1992歌詞全集
- Robert Kimball, *Cole*, Overlook Press, 2004歌詞選集年譜その他の付録つき
- Walter Rimler, *A Cole Porter Discography*, Charles Sylvan, 1995ポーターの音源目録
- William McBrien, *Cole Porter, A Biography*, Albert A. Knopf, 1998ポーター伝記良書
- Charles Schwartz, *Cole Porter : a Biography*, Da Capo Press, 1979ポーター伝記定本
- George Eells, *A biography of Cole Porter*, Berkley Medallion, 1972ポーター伝記良書
- Patrick O'Connor, *Cole Porter*, Yale University Press, 2008ブロードウェイ大家叢書
- Stephen Citron, *Noel and Cole*, Hal Leonard, 2005創作と同性愛。譜面分析あり
- Joseph Morella, *Genius and Lust*, Carroll & Graf Pub, 1995創作と同性愛
- David Grafton, *Red, Hot, and Rich, an Oral History*, Scarborough, 1987同時代証言
- ポーター譜面集
- Music and Lyrics : A Treasury of Cole Porter*, Vol. 1, Hal Leonard, 1981定本譜面集
- Music and Lyrics by Cole Porter*, Vol. 2, Hal Leonard, 1987定本譜面集
- Cole Porter : 100th Anniversary* (Box Sets), Warner Bros Pubns, 1997記念譜面集
- The Collected Songs, Volume 1 : 1916-1919*, Masters Music, 1995初期譜面集
- The Unpublished Cole Porter*, Simon & Schuster, 1975未完譜面集
- Cole Porter Rediscovered*, Paperback, Alfred Publishing, 2000再発見譜面集
- Unpublished Cole Porter*, Alfred Publishing, 2003新未完譜面集
- Cole Porter-A Musical Anthology*, Hal Leonard, 1981ミュージカル譜面集
- Porter on Broadway*, Warner Bros Pubns, 1987ミュージカル譜面集
- The Great Songs Of Cole Porter*, Warner Bros Pubns, 1986フェルドマン版譜面集

ミュージカル関連

Kiss Me, Kate, Piano-Vocal Score, Hal Leonard, 1981初演版譜面全集（全17曲）
Kiss Me, Kate, Piano-Vocal Selection, Hal Leonard, 1999再演版譜面選集（全14曲）
 Samuel & Bella Spewack, *Kiss Me, Kate. A Musical*, Reclam, 2001批評版台本
The Great Musicals of the American Theatre : Vol. 1, Chilton, 1973批評版台本
 Alec Wilder, *American Popular Song*, Oxford University Press, 1972譜面分析を含む
 Joseph P. Swain, *The Broadway Musical*, Scarecrow, 2nd ed., 2002譜面分析を含む
 Stanley Green, *The World of Musical Comedy*, Da Capo Press, 4th ed., 1984定本
 Martin Gottfried, *Broadway Musicals*, Abrams, 1979, pp. 200-19. 大判写真多数
 Alan Jay Lerner, *The Musical Theatre*, Da Capo Press, 1989邦訳（筑摩書房）あり
 玉崎紀子・酒井正志『欧米演劇を探索』勁草書房2002第1部第3章が関連項目

CD音源

Cole Porter In The 1930s, 3CDs, Koch International, 1993生誕100周年記念盤
Cole Porter In The '20s, '40s, And '50s, 3CDs, Koch International, 2002記念盤
From This Moment On: The Songs of Cole Porter, 4CDs, Sony, 1992スミソニアン盤
Cole Porter Revisited by Ben Bagley, 5CDs, Painted Smiles, 1989-91バグレー盤
The Ultimate Cole Porter, 4CDs, Pearl, 2001-3 マイナーな曲を広範囲に収録
Capitol Sings Cole Porter: Anything Goes, CD, Capitol, 1991ポーター財団推薦の名盤
Kiss Me, Kate (1948), Original Broadway Cast, CD, Sony, 1998初演リマスター盤
Kiss Me, Kate (1953), Soundtrack, CD, Rhino/Turner, 1997映画のサントラ盤
Kiss Me, Kate (1990), Cast Recording, 2CDs, EMI Angel, 1990未使用曲音源収録
Kiss Me, Kate (1999), Broadway Revival Cast, CD, DRG, 2000再演版の定盤音源

DVD映像

「コール・ポーター物語」（1998）コロンビア2000ポーターのドキュメント映画
 「五線譜のラブレター」（2004）フォックス2005 K. クラインがポーター役の伝記映画
 「夜も昼も」（1946）ジュネス企画2004 K. グラントがポーター役の伝記映画
 「上流社会」（1956）ワーナーホームビデオ2007ポーターが全音楽を担当した映画
 「絹の靴下」（1957）ワーナーホームビデオ2007ポーターが全音楽を担当した映画
 「キス・ミー、ケイト」（1953）ワーナーホームビデオ2006 K. グレイソン主演映画
 「キス・ミー、ケイト」（2002）TDK コア2006 PBS テレビで放送された再演版
 「じゃじゃ馬馴らし」（1929）アイ・ヴィ・シー2003 M. ピックフォード主演の映画
 「じゃじゃ馬馴らし」（1967）ソニーピクチャーズ2005 E. テイラー主演の映画
The Taming of the Shrew (1976), Kultur Video, 2002舞台版（1976）のライブ収録

